

平成 30 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム「箱根山」(西棟)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391000114		
法人名	医療法人 勝久会		
事業所名	グループホーム「箱根山」(西棟)		
所在地	岩手県陸前高田市小友町字猪森77		
自己評価作成日	平成30年9月25日	評価結果市町村受理日	平成30年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0391000114-00&PrEfCd=03&VerSjOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりがその人らしく過ごせるように、その人の思いや個性を大切にされた個々の部屋作りや趣味を提案、毎月行事を計画している。高台に位置しており、眼下には田園風景が広がり、四季折々の表情をみせている。法人の医療・福祉に関する総合的なバックアップがあり、研修会も定期的に行っている。地域にあるホームではなく、地域の中の一軒として毎年地域の保育園や小学校慰問を受け入れ交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、樹木と田畑に囲まれた小高い丘の中腹に位置し、見晴らしの良い自然環境に恵まれた場所に立地している。周辺には小学校、保育園、理容所、商店があり、集落の中心部にも近く、生活環境も整っている。運営推進会議の委員として、保育園、小学校の校長、近くの事業所や住民の代表者が委嘱されており、園児等との交流や運営への助言などを得て、地域との連携や業務の改善に取り組んでいる。運営に当たっては、法人の運営方針に基づき事業所で定めた理念により、利用者の個性と生きがいを大切に、利用者に寄り添い意向を把握しながら、利用者の知識や経験を生かした手伝いなども得て、利用者職員が共同の生活者として、医療と福祉、介護の連携のもと、充実した介護サービスを提供している。また、職員の提案の取り込みや資格取得の支援など、職員の知識と能力向上にも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム「箱根山」(西棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」一人一人のその人らしさを大切に生活を送る。』を理念としスタッフルームに掲げている。	昨年8月の2ユニット体制発足を契機に、職員皆で話し合い「入居者の個性の尊重」と職員も「一緒に楽しく」の思いを込め、「ゆっくり、いっしょに、楽しみながら、一人一人のその人らしさを大切に生活を送る」と理念を変更した。職員会議、申し送りで確認し、利用者の心情を大切に介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育所の散歩コースとなっており、毎月保育所だよりを届けに来てくれている。小学生のふれあい体験として来訪するなどその都度交流している。	保育所の散歩コースということもあり、保育便りを持って月1、2回寄ってくる。正月には地域の人が獅子舞に来ている。高校生の職場体験のほか、各種ボランティアの受け入れ、地域の文化祭への作品の展示など、地域との交流を進めている。	地域の住民や新興住宅地の居住者などに働きかけ、事業所の行事への参加、支援や職員等の地域の環境整備事業への参加など、地域との交流の強化に向けた取り組みの検討を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の行事への参加や小学校、保育所の行事の参加や体験学習・慰問の受け入れを通して認知症の人の理解や支援の方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年6回開催している。これからの行事予定などの報告により、保育所や小学校との交流のきっかけとなっている。	地域の代表者や保育園、小学校の代表者などの参加を得て、業務への助言、提案を頂き、園児との交流を進めているほか、行政や消防署からの感染症対策、避難訓練に対する助言なども業務に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当課職員や生活保護の担当職員と直接市役所へ出向き、相談や報告し連携を図っている。また、運勢推進会議へご参加頂き協力関係の継続に努めている。	市主催の法改正の説明会や研修会に参加しているほか、要介護認定申請や生活保護関係の届出など、家族の要請で代行する際にも、助言、指導を得ている。法人のボックスが市に設置され、各種情報を容易に入手出来るほか、緊急情報はメールやファックスで得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関に「身体拘束ゼロ」を掲げ、日々身体拘束ゼロを心がけ、スタッフミーティング時に3か月に一回は身体拘束についてじっくり話し合い改善に取り組んでいる。	法人の身体拘束廃止の標語を掲示しているほか、法人の研修会に参加した職員の伝達講習等により、職員に周知している。新たに事業所内に設置した身体拘束防止委員会を3月に1回開催し、より徹底を図っている。玄関の施錠も夜間のみで身体拘束の事例はなく、特にスピーチロック防止を進めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の虐待防止の研修への参加や管理者は虐待が行われないように注視をし、法人内で行う研修会に参加や職員に虐待防止のパンフレットや資料など閲覧するように促している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度をパンフレットや資料などを閲覧するように職員に促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族と面談の上、十分に説明し意見を求め理解されて入居者・ご家族は同意されている。その都度不安や疑問などがあれば再度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	接遇委員会で言うアンケートや法人ホームページの「問い合わせ」にて意見提示できるようにしており、面会時などにもご家族から意見を聞くようにしている。	来所時の聴き取りや法人の接遇委員会が毎年1回実施している全家族アンケート調査の結果などを業務に反映させている。また「おたより」を家族に送付し、近況報告かたがた意向を伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや毎月開催しているスタッフミーティングの場において職員の意見を聞き運営に反映されている。	年1回の個人面談は、各自が将来の希望、要望を表わす機会として、勤務内容や資格取得、業務計画の提案などが話され、職員の知識習得、勤務日程の変更、業務の改善などに生かしている。月1回の職員会議や毎日のミーティングでも職員の意見や提案等の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士などの国家資格を取得した場合に給与や賞与の支給額に反映される仕組みになっている。統括部長や部長が様子を見に来て職員の話聞き、状況の把握をし職場環境などの整備や適材適所の人事異動に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修には適任者を参加させ、専門的に業務に従事出来るように努めている。今年度は岩手県グループホーム協会の研修などに参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の定例会や沿岸南ブロック定例会に参加し、その中で他のホームの職員と意見交換や情報交換を行いサービスの質の向上につなげている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅に初回訪問時やホームに見学に来た時等、ご本人や家族の希望や訴えを傾聴し、その中で何が必要でどうして欲しいのかをスタッフで話し合い、安心安楽な生活を送って頂き不安を取り除く為、コミュニケーションを図り信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のかかえる問題や意向等をお聴きし、そのニーズに応えられる様、誠意を持った対応と安心してホームに任せていられると言って頂く為にもきちんと内容を説明させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今まで過ごされて来た生活スタイルに近い物を取り入れご本人の趣味や得意とする物、出来る事をケアプランに導入し、その人らしくホームの生活に慣れ親しんでいく対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中の役割として、その利用者に出る事を職員と共に行って頂いている。例えば、食事の後片付け、食器洗い、お米とぎ、洗濯物たたみなどを一緒にする事で信頼関係を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族に入居者の状況をお知らせすると共に面会の呼びかけも行い、面会時には改めて近況報告し要望等をお伺いしている。また、可能なご家族には病院受診をお願いし利用者の健康状態を共に把握し関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで自宅へ行き必要な物を取ってきたり、地域で行われる各種行事に参加し馴染みの関係の支援に努めている。	親類、近所の方が時々訪ねてくる。馴染みの美容院に家族と行く方が2、3名、あとの方は出張床屋を利用している。近くの産直主催の「案山子祭り」に出展し交流の機会にもなっている。ドライブでの外出の際に自宅を訪れる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流を多く持つ様に特に仲の良い利用者同士隣席にし、親睦を深めて頂いている。又、全員が共通の話題に参加出来る様に話題を提供し場を盛り上げている。関係が悪くなってきた入居者が出てきた時には席替えを行い対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて連絡表の発送や電話、また個人情報に配慮しながら外部で会った際は挨拶や会話を持つ機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族に生活歴を聞くようにしている。情報を基にして入居者と会話をしながら意向の把握に努めている。困難な場合は入居者の表情で快・不快を見分けるようにしている。	利用者の生活歴や知識、経験を生かし、食器洗い、モップ掛け、菜園の植栽など、生きがい対策を進めているほか、拘りのある方にはスタッフ間で連携して思いを叶えるよう努めている。利用者に寄り添って聴き取り、食事、外出、入浴からテーブルの座る場所まで、きめ細かに対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握に努め、可能な範囲で馴染みの生活が送れるよう配慮している。ホームでの生活がストレスにならないよう環境を整え円滑な人間関係が築けるよう対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子観察を行い個々にあった家事、運動など入居者のペースで実施できるように努めている。身体状況についてはバイタル測定を実施し不調の際は看護師に相談している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを6ヶ月毎に作成しカンファレンスで課題に対する対応を職員で検討している。状況に応じて家族と方向性を話し合う機会を持つなどし作成している。	居室担当職員がモニタリングのうえ計画案を作成し、職員会議でカンファレンスを行なっている。計画作成担当者、ケアマネが家族の意向や医師の指示、看護師の助言を反映させ、6か月ごとに計画を作成している。様態の変化など緊急の場合は随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、申し送り表、連絡ノートを通して職員間で情報を共有している。不十分な所はお互いに口頭でも伝えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応出来るように、話しを傾聴しホームの生活がストレスを感じられないようにサービスの多機能化に取り組み支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣小学校や保育所との交流を通じて楽しく過ごせるように努めている。利用者一人一人にも出来る範囲でお手伝い頂いている。利用者の中にも率先して行っている方もおり職員が安全面をその都度話し合いお手伝い頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族等の希望を尊重してかかりつけ医を決めている。ご家族が受診対応する時には、ホームでの健康状態を文書として渡している。	従前のかかりつけ医又は協力医への変更とも概ね半々位になっている。受診の同行は家族が原則だが、要請があれば職員が同行している。家族へは前回の医師の指示も伝達している。皮膚科など特別科も同様である。感染症予防接種は協力医が対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が定期的に来所し健康管理を行っている。日常の関わりの中で早期に気づけるよう訪問看護来所時や電話で不安や疑問点を相談し助言を受けた上で支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は家族同意のもと入居の情報を提供し、また出来るだけ早期に退院できるように、情報交換や相談を病院関係者で行い関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期のあり方についてご本人・ご家族の意向を確認した上で、看取りの説明を行っている。事業所での看取りとするか、それとも母体施設への転院とするかなど、母体施設の医師や看護師と一緒に十分に説明した上でご本人・ご家族に決めて頂いている。	重度化した場合の対応について、入居時に説明している。終末期には、看取りや法人の関連施設への利用について、改めて家族等の意向を確認している。看取り経験もあり、職員は知識を習得しているほか、医師の指示や訪問看護ステーションの看護師の指導を得て、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が急変や事故発生時に備え、マニュアルをもとに対応や手当の訓練を行い、また研修へ参加し実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	外部の水害対策についての研修の参加や法人で行う研修や災害対策委員会へ参加、消防訓練を行うなど災害に備えている。	防火計画の中に震災対策も盛り込んでいる。ハザードマップや避難場所は確認済みである。避難訓練は、年2回実施し1回は夜間想定訓練とした。市の災害情報を屋外の有線放送のほか、メールやファックスで受信している。食材の備蓄、ガスコンロ、自家発電機、ヘルメットも常備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが入居者の把握を密にし、不穏状態やそれ以外に対しても十分に注意した上で声掛けをしている。又一人ひとりを尊重しプライバシーに留意した行動・対応を心掛けている。	個人情報、ファイルで事務室内のロッカーで保管するほか、本部のサーバーで管理し、カード、パスワードで保護している。おたよりへの写真掲載は家族の同意を得ている。個人の生活歴や個性を尊重し、話しかけや排泄を失敗した際の対応などに配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人それぞれ、自分の希望を述べ、職員がその希望に対して対応している。介護側から一方的な支援にならずに、なるべく自己決定が出来るように選択肢を与えるなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護側の都合や思いを優先せず、その方のペースや生活習慣を尊重した意向に沿ったケアの提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や起床時など可能なかぎり、自分で選び用意して頂いている。カットは理容師に訪問して頂きご本人が希望の髪型を伝えている。また、なじみの美容院や床屋へ行く入居者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備の際、一人ひとりの能力や意欲を考慮し、出来る人又はやりたいと申し出がある人に手伝って頂いている。毎日の日課に行っている入居者もおり、それぞれが自分の仕事として作業されている。	管理栄養士の指導を得ながら、職員がメニューを作成し、ユニットごとに調理している。利用者は食器洗い、テーブル拭きなどを手伝っている。流しソーメン、秋刀魚の塩焼き、ぼたもちなど、季節感のあるものや、ドライブでの外食(寿司)、誕生日の希望食なども提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事・水分摂取量を把握し、確認しながら提供している。食事・水分などで好まない場合や摂取出来ない場合は食事形態・水分内容を変更するなどして対応している。管理栄養士に相談する場合もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後義歯の洗浄や歯磨き、口腔清拭にて対応している。声掛け・誘導し、その人に合わせた見守りや介助をしている。口腔ケアを行ったかチェック用紙に記入している。また歯科衛生士による口腔内の健康指導も行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意のサインに気づき、個々の排泄パターンを把握し、尿意があいまいな方は定時で誘導する等して極カトイレで排泄出来るよう努めている。羞恥心に配慮しながら、気持ちよく排泄できるように支援している。	個人ごとの排泄チェック表を作成し、それとなく誘導、案内している。日中の自立者は6名で、足元のセンサー利用は3名、夜間の排泄、見守り等の介助は6名で、オムツ使用は1名である。昼は布パンツ3名でその他はリハビリパンツやパットを併用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼りすぎないようにしたいと考え、水分摂取量を確認して水分不足にならないように、ジュース・乳製品など個々の入居者が摂取しやすい物にしたり、食事に繊維質の物を取り入れるように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康状態に合わせ、声掛けにより出来るだけ入浴されるように配慮している。拒否がある時には声掛けを気をつけたり、時間帯を変更するなどして、個々のペースに合わせた支援をしている。	毎日午前又は午後に概ね週2回の入浴となっている。入浴を嫌がる方には、時間や日の変更で対応し、特に異性介助も問題はないが、意向は確認して対応している。入浴剤やゆず湯を提供しているほか、ゆっくり時間をかけ、歌や世間話など、楽しい時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて日中でも自由に休息して頂いている。居室の温度の好み等にも配慮している。希望に応じて昼寝の時間を設けたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬を職員が把握し理解すると共に服薬後等の状況に変化がないか観察に努めている。服薬時はマニュアルに従い、カートを使用し誤薬を防いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や裁縫、庭での野菜の栽培等一人ひとりの生活歴や能力を活かし、意欲向上につながる支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外作業などを望まれる入居者に対し、体調の確認や気候も考慮の上対応している。ご家族の協力をあおぎ外出される事もある。	天気の良い日は、周辺を散歩しているほか、庭やデッキで日向ぼっこ、ラジオ体操をしている。ドライブで花見、紅葉狩りや気仙沼のシーミュージアムにも出かける。時間が空いた場合は、2~3人で近くに車で出かけ、自宅訪問、買い物のほか、慣れ親しんできた景観を眺めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで管理しているが、欲しい物・必要な物があれば残金を確認し一緒に出掛けたりしている。家族には小遣い帳を見せて理解して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応しており、電話・手紙共にいつでも受けられるように家族に毎年、年賀状を送っている。手紙を書けるように文字の練習をしたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下、居室の入り口には季節の装飾品を飾ったり、テレビの音量、温度管理、明るさ等に配慮し快適に過ごせるよう努めている。	南向きの広い引き戸と天窓から明かりが差し込み、クリーム色の色調の壁で、柔らかな雰囲気となっている。作品の展示と季節の飾りが適度に配置され、食事用テーブル、ソファなどでくつろぎ、簡単な計算や手芸、工作をしている利用者もいる。整理、整頓され清潔感が感じられる。温度や湿度は床暖房、大型エアコン、空調機、加湿器、扇風機等で管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやソファにて入居者同士が話しやすい空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談をし、レイアウトを決めたり、馴染みの家具を持ち込みをして過ごしやすい居室へするように配慮している。	ベッド、洗面台、ナースコール、テレビ端子が設置され、4室はトイレが併設されている。タンス、籐イス、衣装ケース、家族写真、位牌などが持ち込まれ、利用者の意向に沿った、環境となっている。温度、空調はエアコンで管理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内バリアフリー構造であり、居室もわかりやすいように目印を付けるなど工夫をし、安全かつ自立した生活が送れるように努めている。		